

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	観光旅館組合 （職員）	来客数の動き	・夏休みということもあり、子ども連れの客が多い。旅館は盆ぐらいから満室が続いているところも多い。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・耐震診断と耐震補強設計案件が良く出ており、当地の同業者は多くの仕事を抱えている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・東日本大震災の自粛ムードも一段落して、平常に戻りつつある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・イベントが開催され、中心街の来街者が増加した。バーゲンの開催とも重なり、やや良くなっている。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・3か月前の売上高は、東日本大震災の影響で前年を5%以上下回っていたが、今月はほぼ前年並みで推移している。この時期の売上を大きく左右する中元も前年をクリアした。また、夏物クリアランスセールも好調に推移している。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月の売上は量販店が前年比104.6%、コンビニエンスストアが同105.4%、ローカルスーパーが同100.4%と比較的に良かった。九州新幹線全線開業効果もあり、人の動きが良く、売上が若干伸びている。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当地の特殊要因であるが、競合店が2店舗閉店したため客が当店に流れており、来客数がやや増えている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・3か月前と比べるとメーカーからの新車供給量が増え、ほぼ震災前のレベルに戻った。収益も今月は黒字が確保できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	単価の動き	・空港の搭乗客数は前年と比較してほとんど変わらないが、2、3か月前よりは改善している。ただ、客の購入単価は前年比10%程度低下している。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・九州新幹線全線開業の影響から、客は少し増えている。しかし、それも観光関連ビジネスだけで、幅広く増えているわけではない。
		観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・東日本大震災の影響を受けていた宿泊状況は、回復している。九州新幹線全線開業の効果もあり、特に関西以西からの客が増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊、レストラン共に順調に客足が伸びている。ピヤホールは梅雨が早く明けたせいか、過去最高の売上になっている。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・九州新幹線全線開業や新駅ビルの相乗効果、東日本大震災の影響による旅行の振り替え需要により、7月の後半から8月にかけて家族連れが非常に多くなっている。また、インパウンドの回復もみられる。
		旅行代理店（企画）	販売量の動き	・東日本大震災の影響は薄れ、8月に旅行を控えていた客が9月以降、動き始めている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・盆時期であり、2、3か月前よりは良かった。しかし、依然として東日本大震災の影響がいくらか残っている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・6月の新商品発売後、スマートフォンの人気が高まり、全体の売上のほぼ半分を占めている。今月も先月からの好調を維持し、前年を上回った販売数が続いている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・7月、8月の宿泊状況は、口蹄疫の影響を受けた前年に比べるとプラスで推移している。夏休みであり、ファミリー客でにぎわいをみせている。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・夏休みということもあり、教室の見学者が増えている。
		住宅販売会社（代表）	お客様の様子	・客の受注や売上の話を聞くと、景気はやや良くなっている。
		変わらない	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き		・中元時期に入り、例年程ではないが注文が入っている。初盆の返礼も好調で、下降気味だった売上に少し貢献している。しかし、猛暑にはかなわず売上はマイナスである。	

百貨店（営業担当）	販売量の動き	・中元ギフト、クリアランス、夏休み時期ということで、来店、購買の動機がそろう、中元ギフトの売上は前年を確保した。ただ客単価、1品単価、1人当たりの買上点数はいずれも前年を下回り、売上が減少している。一方、衣料品は紳士、婦人共に好調で、クリアランス時期のバーゲン品と正価販売品共に好調である。また、クレジット比率が高まっているが、依然慎重な買物姿勢は続いている。
百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・競合店が閉店し、前年比100%となった。近隣の2つの商業施設をみると、同101~102%、同105%で推移している。大型店は3か月前とほぼ変わらない。当店は3か月前から3%は上がっているが、競合店の閉店を勘案すると、もっと上向いてもいいところである。同商圏の他店が前年とほぼ同水準であるため、総じて変わらないと判断した。当店は衣料品の紳士服、婦人服、リビング関連商品が、競合店の閉店により今後上向きになる。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏物のクリアランスは先月から好調に推移していた。しかし、盆以降日差しのない天候が続き、外出を控える客が増え、夏物購買の勢いは鈍化している。これから秋物商戦に移っていくが、秋の立ち上がりとしては動きが弱い状況である。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・売上が前年比5%程度のマイナスが続いている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・来客数は変わらないが、客の買い控え傾向がみられ、販売点数が少ない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前は東日本大震災直後の特需的な売上があり、今月はその反動で、加工食品を中心とした部門で売上が落ちている。また、水産品の売行きが悪いことに加えて、牛肉の売上が大きく前年割れとなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・今夏は猛暑だったが、前年に比べると比較的過ごしやすいため、猛暑関連商品の動きは非常に鈍かった。今年の省エネあるいはクールビズ関連商品も8月になり一気にブレーキがかかり、以前ほど売上に貢献することがなくなった。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・先月は暑さ対策商品や省エネ関連商品等の動きが好調だったが、今月に入り衣料品を中心に動きが鈍くなっている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年に比べて8月後半から暑さが和らぎ、夏物商材、衣料品等の落ち込みがあった。また、毎日のように降る午後の一時的な大雨の影響で売上は減少傾向にある。
スーパー（業務担当）	販売量の動き	・例年、夏休み期間中は帰省需要等もあり、食料品は生鮮食品を中心に大きな売上の増加となっている。ただ、今年は野菜や果物の生育不良や食品の放射能汚染問題の影響により、食料品の売上点数が伸び悩んでいる。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・天候不順が続き夏物商品の売上に鈍化傾向がみられ、前年割れが続いている。たばこの売上が全体の売上を押し上げている状況で、やはり厳しい。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・たばこの入荷が回復し売上に繋がっているが、依然としてプラス1品の買い控えが続いている。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量の動きに注目すると、前年度はエコカー購入補助金制度があり、かなり販売が進んだ。その頃とほぼ同じ位の受注、販売をしている。
乗用車販売店（代表）	それ以外	・周りの状況をみても、3か月前と比べて全く変わらない。知り合いの経営者と話しても、景気のいい話は出てこない。
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・売上は横ばいだが、高額商品の割合が高くなっている。相変わらず節約の意識は高いが、消費者は金がないわけではない様子である。
その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・例年同様、中元シーズンを過ぎてコーヒーの需要は一段落している。当地は7月が盆時期であり、その時にギフトと家庭用のコーヒー豆は購入しているため、今月のコーヒーの売上は下がる。また、客の様子をみても、購入割合は前年に比べて若干減っている。
その他専門店【書籍】（店長）	販売量の動き	・急激に進んだ円高、株安が経済に少なからず悪影響を及ぼしている。景気回復の遅れが消費マインドの低下に結びついており、苦戦を強いられている。

その他専門店 〔ガソリンスタンド〕(統括)	販売量の動き	・燃料油の販売量は、概して前年並みである。高速道路料金引下げの施策が終了しているが、当地を訪問する観光客等は前年並みである。	
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(総支配人)	来客数の動き	・3か月前と比較して、来客数に大きな変化はなく、売上の前年比も同様に推移している。	
高級レストラン(従業員)	来客数の動き	・女性客が減っている。	
スナック(経営者)	お客様の様子	・懐具合を気にしながら飲んでいる客が多い。また、常連客の来店頻度が落ちている。	
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・円高効果もあり、海外旅行は韓国を中心に前年を大きく上回っている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・価格が少し下がっているせいか、電化製品等を購入している乗客がいる。ただ、食料品は若干値上げ気味であり、消費動向は相対的には変わらない。	
タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きにムラがあり、タクシー利用が全然増えない。例年に比べて、レンタカーの利用が多い。	
通信会社(管理担当)	それ以外	・相変わらず資金繰りの状況が悪い。	
通信会社(営業担当)	それ以外	・東日本大震災の影響がまだ残っており、立ち直っていない。	
ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・来場者数は顕著に伸び、来月も2か月先の予約数も前年より多く、景気が回復しているのを実感できる。	
ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・前年同様に猛暑が続いており、アウトドアスポーツにはマイナス要因となっている。8月の客入り状況はもともと良くないが、近年は更に落ちる傾向にある。	
美容室(店長)	来客数の動き	・会社関係の転勤時期にあたり、来客が少なくなっている。	
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	来客数の動き	・8月の残暑や節電によるエアコン等の利用控えにより、体調を崩す利用者が増加し、来客数の増加幅が横ばいとなっている。	
設計事務所(代表)	来客数の動き	・客からの問い合わせ件数が3か月前と変わらない。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の来街者の3割は年配層であり、冷房設備がないため商店街は暑く、買物に来る客が少ない。また、最近、近くの駐車場が閉鎖になり、来客数が減少している。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・とにかく必要な物以外は買わないという消費者の購買行動がはっきりと表れている。どんなに安くても良い物、気に入った物であっても、自分が今必要としていなければ購入しない。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の来街者数が減ると同時に、客の財布のひもが非常に固い。単価も下がっており、大変厳しい状況が続いている。
	一般小売店〔精肉〕(店員)	販売量の動き	・飲食店への卸は堅調だが、店頭での小売販売量が減っている。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・盆までは売上も順調であったが、20日以降、急激に売上が悪くなった。気温が再度上昇し、客の秋物に対する興味が急激に薄れている。客は安くなっても夏物にも反応せず、売場としても手詰まりな状態である。
	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・石油、食品等の価格が高騰傾向にあり、客の生活防衛意識が高まり、消費意欲は低迷している。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・在庫はたくさんあり、前年と同じセール、催事を行っているが、客の購買意欲は非常に低い。この傾向は先月より更に強くなっている。
	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・8月は例年、消費の端境期になるので、今年もやはり動きは悪い。来客数の動きが前年比で大きくマイナスとなっている。競合他社の状況もあるが、8月に入ってから非常に厳しい状況が続いている。
	スーパー(店長)	お客様の様子	・生鮮の青果や精肉、鮮魚の売上が悪くなり、前年より食品の放射能汚染問題の影響で食品の買い控えの傾向が強い。売上は前年比100.2~100.3%で推移しており、6月、7月に比べるとやや下向きな傾向である。客はますます買い控えの傾向を強めており、特に生鮮食料品が苦戦している。

スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は前年比100%に近いが、盆関連商品の動きが悪く、買上量がかなり少なくなっている。盆、中元期の売上は落ち込んでいる。	
スーパー（店長）	来客数の動き	・盆期間、車での帰省客は前年より大幅に減少した。また、食品の放射能汚染問題の影響で牛肉の産地表示を強化したものの、売上は前年比15%減少している。豚、鶏肉、その他でカバーするもなかなか売上は上がらない。米は古米より九州産の新米5キログラムが前年より非常に活発に動いている。しかし食品全体の底上げにはならず、3か月前と比べて6%の減少である。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・盆前の10日間は非常に厳しかった。食品に関しては食品の放射能汚染問題の影響で牛肉の売上が前年比80%、衣料品においても天候不順により、売上が伸び悩んでいる。	
スーパー（総務担当）	単価の動き	・急激な円高、国内景気の先行き不安等から、消費動向は厳しい。加えて、競合他社間の競争激化により、販売単価の下落に歯止めがかからない。また、来客数も増えず、売上高の減少という負のスパイラルから抜け出せない構図となっている。	
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・相変わらず来客数が少ない。地域振興券も限定的には使われたが継続使用につながらず、店の売上につながっていない。客の購買意欲も萎縮しているようで、景気は再び沈み始めている。	
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・夏物の最終セールは前年並みの売上だったが、初秋物の正価販売品の立ち上がりが良くない。豪雨や猛暑等天候の影響もあるが、来客数が落ち込み、フロア全体に活気がなかった。	
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・地上デジタル放送への完全移行に伴う特需の反動と天候不順による季節商材の動きの鈍さにより、売上は落ち込んでいる。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度等景気対策がなくなり、客の購入意欲が低く、受注が伸びない。	
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・例年8月は盆時期から来客数が増えるが、今年はその動きがみられない。来客数、売上共に前年を下回っている。	
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年8月は企業の夏休みがあり、盆前後10日間位はかなり客が少なく、大変な月となる。今年には本社のある関東で計画停電があり、例年以上に盆前後の問い合わせがほとんどなく、動きが鈍かった。	
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数が少し減っている。	
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	お客様の様子	・盆までは何とか景気は良かったが、盆を過ぎたらめっきり来客数が少なくなり、商店街の人通りも少なくなっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・8月は各種夏のイベントが開催され、イベントのある時間帯はよく動いている。全体をみたら売上、稼働率が非常に落ち込んでいる。	
通信会社（総務局）	お客様の様子	・アナログ放送の終了後は円高や株安、政局不安、食品の放射能汚染問題等消費を鈍らせる要因が多い。7月までのキャンペーンの反動減もあり、やや悪くなっている。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・ブロードバンドエリア拡大による販売量の増加が一段落し、販売量が停滞する。	
その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・良くなっている部分もみえるが、全体的にみて若干悪い。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・電力需要の問題や円高等で輸出産業は非常に苦勞していると聞く。輸入関連の雑貨店等は円高の差益で非常に状況は良いが、景気を左右するところまでいかない。円高による輸出産業の低迷が非常に心配される。	
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費の低迷が続き、猛暑や雷雨等天候要因も重なり、商店街への来客数が減少している。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・8月は半分以上が雨の日となり、まるで梅雨のような天候不順が続いたので、客足が伸び悩んだ。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・蒸し暑い日が続く、全く客が来店しない。

		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・当店はギフト、贈答メインの生花店であり、暑さが続くと生花は販売量も売上も少なくなり、今年も厳しい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・小物は売れているが、大物の販売量が非常に減っている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・この夏は天候不順で客の動きは今一つである。客の年齢層が上がっているせいもあり、購買動向は盛り上がりがない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電販売はアナログ放送の停波により、7月24日以降テレビの販売量が減っている。8月の初旬辺りまでは少し動きがあったが、それ以降大きく減少しており、11月まではこの状況が続く。
		自動車備品販売店（従業員）	それ以外	・アナログ放送の終了により、地上デジタル放送対応チューナーの動きが止まっている。高速道路料金引下げも終了し、玄海原子力発電所の問題等消費環境が悪化している。
企業動向関連	良くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規設備の受注が活発である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・自動車メーカーのサプライチェーンが回復する等、九州の製造業にとってはプラスの作用が働いている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・東日本大震災の影響もあり、3か月前はゴールデンウィークであってもパツとしない状況であったが、8月は状況的には大変良く、客も多い。7月は天候不順だった関係もあり、出遅れた分、8月は取り戻しているところが多い。
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月は盆需要で、不調であった本店の注引量が多かった。冷凍食品向けは相変わらず引き合いが強く、注文に対応できない状況である。居酒屋向けは、少しは戻っているが、盆過ぎから厳しい状況にある。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・不安材料はあるもののマンション建設や商業施設建設等が増えており、家具の見積依頼が増えている。ただし高額商品の動きは鈍いままで、安価な商品を単品で購入する人が多くなっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月になり、9～10月の仕事量をなんとか確保できた。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が増え、経常利益が上がっている。
建設業（社員）		受注量や販売量の動き	・入札が1週間に4～5件発注されており、3か月前に比べれば比較にならない程良くなっている。ただ受注する業者が偏っているのは否定できない。しかし今期は繰越工事が少なかった分、貪欲に受注していきたい。	
金融業（得意先担当）		取引先の様子	・3か月前の東日本大震災直後に比べるとかなり回復している。足元の状況は非常に厳しくなっているが、取引先の代表者、経理担当者とは話をするなかでは、良くなってきた。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・この1か月、問い合わせや注文が増加しており、客の投資意欲が上向いている。	
変わらない	食品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品在庫が少なく、販売量を伸ばせなかった。	
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売数量等はあまり変動がない。	
	その他製造業（産業廃棄物処理業）	受注量や販売量の動き	・産業廃棄物の混練バランスが悪く、処理量が計画より減産になっている。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・アパレルや食品、日用雑貨等預かっている品物の荷動きが悪くなっている。特に盆過ぎの出荷の落ち込みがひどい。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・民主党の代表選挙や東日本大震災、燃料価格の高騰、円高問題など経済活動面でのマイナス要因が多過ぎる。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業は当面、大手メーカーからの受注が好調である。東日本大震災以降の供給体制が整っていなかった頃と比べ、高いレベルで稼働している。ただし、今後大手メーカーは海外生産へ移行していく可能性が高く、従業員の増加等にはちゅうちょしている。	

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先である中小企業は、秋口に向けて受注を確保し始めている。ただしこれは、東日本大震災以後止まっていた仕事動き出したものであり、本格的な景気の回復ではない。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・現在もそれほど変化はなく、以前の悪い状況がずっと継続している。	
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・酒類メーカーは取引先の拡大をできず、既存店舗の売上が減少し、経営難となっている。他業種に売却される懸念もある。	
やや悪くなっている	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・たくさんの工場が縮小や閉鎖に追い込まれている等良い状況が全く見当たらない。円高の影響から海外への生産移管が進み、仕事の受注が少ない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は、前年と比べて2割の減少となった。荷動きが悪く、特に8月はギフト関連の動きも全然ない。今のところ9月の受注もまだ入っていない状態であり、先々一段と厳しくなる。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・景気そのものは不透明な状態で先行きの見通しがなかなか立ちにくい状況が続いている。これから先、状況の変化があると思われるが、不透明な状況から脱皮する可能性は少ない。	
	金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・円高の影響により、輸出産業を中心に業績が急激に悪化している。円高のため在庫を輸出できず、在庫が増加傾向にあり、資金繰りに困窮している。	
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・通信販売や旅行等の広告量が大きく前年割れとなっている。他の業種ではカバーできず、総じて前年比90%を切る状況である。	
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・取引先の盆休み等を考慮しても、引き合い案件は前年以上を確保している。ただ、ここにきて取引先は先行き不安から設備投資へ慎重になっており、受注高が3か月前に比べて24%程度落ち込んだ。	
悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先から、納期の日延べの相談が届いている。しかも、日延べ日時は未確定であるという。今月の中旬から急激に悪い方向に変化している。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社、近隣の他の倉庫も含めて、在庫がいっぱいの状況である。メーカーが大量に物を購入しているものの、なかなかそれが出庫していかず、倉庫内に在庫が滞留している状況になっている。あらゆる業種で物が売れていない状況が続いている。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村が建設コンサルタントに発注する調査や計画等の委託業務は、入札時に予定価格の半分以下で落札される場合が多くみられる。市町村の予算はほとんど利益が出ないような低価格の場合でも、その7割前後で入札される場合もあり、請け負った業者は赤字覚悟となっている。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・採用やあっせんの求人依頼数が比較的好調である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・職種によって差はあるが、短期、長期共に以前より求人数が増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・携帯電話業界のスマートフォン関連の人材派遣依頼が増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務系長期の派遣求人が、若干ではあるが増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・半導体、自動車関連等で生産能力の拡大や開発機能の強化に伴い人員を増強する動きが目立っており、新聞広告を通じての求人も好調に推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3,731人と前年比9.1%の増加となり、企業の採用意欲が高い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は大幅に増加し、全体的に景気の回復傾向がみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比22.5%増となっており、企業間で業況に差があるものの改善がみられる。産業別でみると、卸売業、小売業、製造業等の求人が増加傾向である。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・求人数が前年を10%程度上回っており、前年求人を控えた企業からの求人情報の提供がある。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・例年8月は求人の取扱件数が減少傾向であるが、今年は減少の幅が少ない。	

	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・この数か月、東日本大震災の間接的影響もあり、取材先の企業の求人状況は良くない意見が多い。
	職業安定所 (所長)	求人数の動き	・新規求職者数は前年及び前月を上回る見込みである。新規求人数も前年同月を大幅に上回り、前月とは1件程度の微増となっている。引き続き、医療福祉、卸売小売業を中心に増加傾向にある。依然として、雇用情勢は厳しさが続くが、緩やかな景気の回復基調がうかがえる。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・求人の提出状況は前年比でみると増加傾向が続いているが、好景気であった平成18、19年度と比較するとまだ求人が多いとは言えない。有効求人倍率も微増したものの、いまだ0.6倍前後で推移している。
	学校 [専門学校] (就職担当)	採用者数の動き	・採用は欠員求人を中心に前年より多少多い状況で推移している。ただし、あくまでもここ数年の欠員補充の中止が限界にきて採用に踏み込んでいるという状況である。景気上昇に伴う追加求人ではない。
やや悪くなっている	民間職業紹介機関 (社員)	求人数の動き	・派遣需要は短期間、単発案件が少ない状況である。長期案件も企業状況が改善して繁忙になっているというものではなく、休みの代理、代行案件が多い。
悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	それ以外	・各県被災者支援に緊急雇用の予算を組むも、九州での希望者は少なく、無理やり集めている状況である。雇用状況の先行きは不透明である。
	民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・求人数は徐々に増加しつつあるが、そのペースが遅い。